

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-208	高等学校	国語	文学国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
212 桐原	文国 212-901	探求 文学国語 改訂版		

## 1. 編修の趣旨及び留意点

本書は、高等学校学習指導要領「文学国語」に準拠して編修した教科書である。教育基本法第2条にある目標と「文学国語」の目標の両方の達成を可能にするため、言語を通して伝え合う力を高め、思考力・判断力・表現力を育成しつつ国語力を高められるよう、題材の選定と学習内容の構成・展開に留意した。

## 2. 編修の基本方針

教育基本法第2条に示す教育目標を達成するため、以下の点を編修の基本方針とした。

### ①指導しやすい2部構成

多様な教育現場の学力レベルと指導形態に対応できるよう「Ⅰ部」「Ⅱ部」の2部構成とし、ジャンル別単元とした。

### ②教材の配置と学習の指針

各教材は、内容のまとまり・指導の時間数を考慮したうえで適切な分量の優れたものを精選した。また、学習上・指導上の効果を考慮して、より易しいものから難しいものへと配列した。各教材の末尾には、「読解」「表現」「発展」の問題から成る「学習の手引き」を設けるとともに、各教材における最終的な言語活動の到達目標を示す「活動」を設定し、学習の指針となるようにした。

### ③教材の理解と主体的な言語活動

学習者の理解力養成のため、各教材の本文下段には内容理解を促す小問を付したほか、末尾の「学習の手引き」には内容理解を深め、主題に迫るための「読解」問題を必ず設けた。さらに、主体的な学びに誘うための言語活動を各教材に設けた。言語活動のうち、「文学国語」の科目の特性を生かした発展的な活動については、「活動のプロセス」を配置・設定した。

## 3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所 (ページ)
Ⅰ部「小説」5単元 (7教材)	①幅広い知識と教養を身に付け、豊かな情操を培えるよう、Ⅰ部に「小説」5単元、Ⅱ部に「小説」5単元を設け、多彩な内容を持つ15教材を配した(第1号)。	①② 16~36 54~66 102~135
Ⅱ部「小説」5単元 (8教材)	②正義と責任、男女の平等、自己と他者との関係について考えを深められるよう、Ⅰ部に「小説」5単元、Ⅱ部に「小説」5単元を設け、多彩な内容を持つ15教材を配した(第3号)。	156~174 175~185 216~234 250~260
	③Ⅰ部に、個人の価値を考える教材「小さく大きな舞台」を配した(第2号)。	270~293 334~364
	④Ⅱ部に、生命を考える教材「虫のいろいろ」を配した(第4号)。	396~436
		③156~161 ④282~293

<p>I 部 「文学評論」1 単元 (1 教材)</p> <p>II 部 「文学評論」2 単元 (4 教材)</p>	<p>①幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養えるよう、I 部に「文学評論」1 単元、II 部に「文学評論」2 単元を設け、多彩な内容を持つ 5 教材を配した (第 1 号)。</p>	<p>①50～53 235～249 372～387</p>
<p>I 部 「詩」単元 「短歌・俳句」単元</p> <p>II 部 「詩」単元 「短歌・俳句」単元</p>	<p>①幅広い知識と教養を身に付け、豊かな情操と道徳心を培えるよう、I 部・II 部それぞれに「詩」単元と「短歌・俳句」単元を設け、多彩な表現に触れられる教材を多数配した (第 1 号)。</p>	<p>①88～99 143～153 262～269 328～333</p>
<p>II 部「対談」1 単元 (1 教材)</p>	<p>①個人の価値を尊重し、創造性を培う態度を養えるよう、II 部に「対談」1 単元を設け、教材「言葉を疑うか、信じるか」を配した (第 2 号)。</p>	<p>①322～327</p>
<p>テーマ型単元</p> <p>I 部 「言葉の豊かさ」 (2 教材) 「戦争と人間」 (3 教材)</p> <p>II 部 「ユーモアの表れ」 (3 教材) 「体験から語る」 (1 教材)</p>	<p>① I 部に言葉を考えるテーマ型単元「言葉の豊かさ」を設け、文学評論・書簡による多様な表現様式の 2 教材を配した (第 1 号)。 ② I 部に平和を考えるテーマ型単元「戦争と人間」を設け、小説・紀行文・詩による多様な表現様式の 3 教材を配した (第 5 号)。 ③ II 部に豊かな情操を養うテーマ型単元「ユーモアの表れ」を設け、随想・小説・文学評論による多様な表現様式の 3 教材を配した (第 1 号)。 ④ II 部に生命を尊び、自然を大切にするテーマ型単元「体験から語る」を設け、1 教材を配した (第 4 号)。</p>	<p>①74～87 ②186～213 ③294～319 ④388～395</p>

#### 4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・生命と世界との関係性と美しさについて触れた「ふわふわ」を導入文として設け、「文学国語」への学びの動機付けとした。
- ・基本的な小説と随想の読解方法を身に付けさせるため、観点を押さえることで小説と随想の読み方を学ぶことができる「読解の基本手順」を設けた。
- ・小説教材の末尾にミニコラム「小道具と時代背景①～⑤」を設け、小説作品に登場する事物が映し出す時代背景を解説し、小説読解の一助とした。
- ・小説の語りの構造や作品の文学史的な意義などを解説した「小説コラム 1～4」と、詩の風合いや言葉の手触りを楽しむことについて触れた「詩コラム」を設けた。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-208	高等学校	国語	文学国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
212 桐原	文国 212-901	探求 文学国語 改訂版		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

個々の教材の採録にあたっては、全体として、学習指導要領の「2内容」の各事項に沿った指導ができるよう、優れた表現を持つ文学的な文章および文学に関する評論文から厳選し、多種多様な表現形式の教材に触れることができるようにした。さらに、主体的な表現力養成を補佐するために「活動のプロセス1～6」を設定し、言語活動の充実をはかった。また、言語文化に対する理解を深めるために、巻頭巻末に「付録」、教材末尾に「小道具と時代背景①～⑤」「小説コラム1～4」「詩コラム」を設けた。

## 2. 対照表

図書構成・内容			該当箇所 (ページ)	学習指導要領の内容			配当時数	
部	単元	教材名		知識及び技能	A 書くこと	B 読むこと	A	B
		掲載作品の舞台・作者ゆかりの地	前見返し	(2)イ	—	—	—	—
		文人の筆跡	付録	(2)イ	—	—	—	—
I 部	〈知〉の コミュニ ティへ	ふわふわ	10～15	(1)アエ(2)イ		(1)イカ		2
	小説Ⅰ —思い出 と発見	ランドセル	16～28	(1)アイウエ(2)アイ	(1)アイ		3	
		活動のプロセス1 本を紹介する	29～31	(2)イ	(1)アイ		1	
		途中下車	32～36	(1)アイウエ(2)アイ		(1)アイ		3
		〔小道具と時代背景①〕 固定電話	37	(1)ウ	—	—	—	—
	読解の基 本手順 —六つの 観点から	〈手順と観点〉	38	(1)アイウエ			—	—
		静かな爆弾	39～45	(1)アイウエ(2)アイ		(1)アイ		1
		自分と出会う	46～49	(1)アイウエ(2)アイ		(1)アイ		1
	文学評論	なぜ小説は速読できないのか	50～53	(1)ウエ		(1)イキ		2
	小説Ⅱ —近代小 説	山月記	54～66	(1)アイウエ(2)アイ	(1)アウ		5	
		〔小説コラム1〕語り手という虚構の存在 —三人称小説の「語り」	67	(1)ウエ	—	—	—	—
		生は乃ち君等と伍を為さんや〔人虎伝〕	68～70			(1)ウオ		2
		活動のプロセス2 古典作品を翻案する	71～73	(1)イエ	(1)アウ		1	
言葉の豊 かさ	もののふの心—言葉とコトバ	74～81	(1)ウエ(2)イ		(1)アカ		3	
	ふわふわふうみ	82～87	(1)アイウエ(2)アイ		(1)イキ		2	

図書の構成・内容			該当箇所 (ページ)	学習指導要領の内容			配当時数		
部	単元	教材名		知識及び技能	A 書くこと	B 読むこと	A	B	
I 部	詩	天景・猫	88～89	(1)アイウエ(2)アイ		(1)ウエ		1	
		永訣の朝	90～93	(1)アイウエ(2)アイ		(1)ウエ		1	
		サーカス	94～95	(1)アイウエ(2)アイ		(1)ウエ		1	
		ふと	96～97	(1)アイウエ(2)アイ		(1)ウエ		1	
		〔詩コラム〕 詩の風合いとゆで卵の殻の 関係について	100～101	(1)ウエ	—	—	—	—	
	小説Ⅲ —近代小説	こころ	102～135	(1)アイウエ(2)アイ		(1)エカ		8	
		〔小説コラム2〕 小説手法の模索—漱石 の場合	136～137	(1)ウエ	—	—	—	—	
		活動のプロセス3 読書会をする	138～141	(2)イ		(1)エカ		1	
		〔参考〕 「こころ」の舞台を歩く	142	(2)イ	—	—	—	—	
	短歌・俳 句	麦わら帽子のへこみ	143～147	(1)アイウ(2)アイ		(1)イキ		2	
		短歌八首	148～149	(1)アイウエ(2)アイ	(1)ウエ		1		
		俳句八句	150～151	(1)アイウエ(2)アイ	(1)ウエ		1		
		活動のプロセス4 短歌を作る	154～155	(1)イエ	(1)ウエ		2		
	小説Ⅳ —認識の 変化	小さく大きな舞台	156～161	(1)アイウエ(2)アイ	—	(1)アウ	2		
		アイデンティティ	162～174	(1)アイウエ(2)アイ	(1)アウ		2		
	小説Ⅴ— 近代小説	山椒魚	175～185	(1)アイウエ(2)アイ		(1)アカ	4		
	戦争と人間	靴の話 (小説)	186～197	(1)アイウエ(2)アイ		(1)オカ		5	
		米坂線109列車 (紀行・随想)	198～209	(1)アイウエ(2)アイ		(1)アイ		3	
		〔小道具と時代背景②〕 ラジオ	209	(1)ウ	—	—	—	—	
		根府川の海 (詩)	210～213	(1)アイウエ(2)アイ		(1)オカ		1	
	付録	読書の羅針盤—高校生の今、読みたい本—	214	(2)イ	—	—	—	—	
	II 部	小説Ⅰ— 寓意と語 り	愛のサーカス	216～226	(1)アイウエ(2)アイ		(1)イキ		3
			少年という名前のメカ	227～234	(1)アイウエ(2)アイ	(1)アウ		2	
文学評論Ⅰ		詩人のふるさと	235～243	(1)ウ		(1)ウオ		4	
		餓鬼道としての詩	244～249	(1)ウエ		(1)アオ		2	
小説Ⅱ —近代小説		檸檬	250～260	(1)アイウエ(2)アイ		(1)アカ		5	
		〔小道具と時代背景③〕 肺結核	261	(1)ウ	—	—	—	—	
詩		春殖・冬眠・富士山 (作品第拾壱)	262～263	(1)アイウエ(2)アイ		(1)オキ		1	
		アイスクリーム・猛烈な天	264～265	(1)アイウエ(2)アイ		(1)オキ		1	
		● (巨きなピリオド)	266～269	(1)アイウエ(2)アイ		(1)オキ		1	

図書の構成・内容			該当箇所 (ページ)	学習指導要領の内容			配当時数	
部	単元	教材名		知識及び技能	A 書くこと	B 読むこと	A	B
II 部	小説Ⅲ —揺さぶられる 「私」	復讐	270～280	(1)アイウエ(2)アイ		(1)アエ		5
		〔小道具と時代背景④〕 電報	281	(1)ウ	—	—	—	—
		虫のいろいろ	282～293	(1)アイウエ(2)アイ		(1)イエ		4
	ユーモアの表れ	客ざらい	294～297	(1)アイウエ(2)アイ	(1)ウエ			2
		畜犬談	298～312	(1)アイウエ(2)アイ		(1)イエ		5
		〔小説コラム3〕 語る「私」と語られる「私」 — 一人称小説の「語り」	313	(1)ウエ	—	—	—	—
		「サヨナラ」ダケガ人生ダ	314～319	(2)イ		(1)オカ		4
		活動のプロセス5 エッセイを書く	320～321	(1)エ	(1)ウエ			2
	対談—詩と短歌の世界	言葉を疑うか、信じるか	322～327	(1)アウ	(1)イエ			2
	短歌・俳句	短歌—寺山修司十首	328～329	(1)アイウエ(2)アイ		(1)オキ		3
		俳句—虹の俳句七句	330～331	(1)アイウエ(2)アイ		(1)オキ		3
	小説Ⅳ —近代小説	舞姫	334～364	(1)アイウエ(2)アイ	(1)ウエ			8
		〔小道具と時代背景⑤〕 官費留学	365	(1)ウ	—	—	—	—
		〔小説コラム4〕 「舞姫」は恋愛の物語か？	366～367	(1)ウエ	—	—	—	—
		活動のプロセス6 短編小説を書く	368～371	(1)エ(2)イ	(1)ウエ			2
	文学評論Ⅱ	参加する観客—映画の「意味」	372～381	(1)ウ(2)イ		(1)イキ		5
		日本語籍を取得した日	382～387	(1)アイ		(1)アカ		2
	体験から語る	樁の海の記	388～395	(1)アイウエ(2)アイ	(1)イウ			2
	小説Ⅴ —非日常へ	バックストローク	396～411	(1)アイウエ(2)アイ		(1)アオ		5
		変身	412～436	(1)アイウエ(2)アイ		(1)ウキ		5
〔参考〕 不条理文学の巨頭 カフカとカミュ		437	(2)イ	—	—	—	—	
付録	日本近・現代文学史年表	438～447	(2)イ	—	—	—	—	
	学校系統図／軍隊の組織・編制図	付録	—	—	—	—	—	
	翻訳が広げる原文の可能性	後見返し	(1)エ(2)イ	—	—	—	—	
	書き出しが誘う小説の世界	後見返し	(1)エ(2)イ	—	—	—	—	
							38	102
<b>総計</b>								140